科目ナンバリング	U-LAS23 10001 SJ48

授業科目名 <英訳>	中国語ＩＡ（文法） C1101,C1102,C1103,C1104,C1105,C1106,C1107,C1108,C1109,C1110,C1111,C1112,C1113,C1114,C1115,C1116,C1117,C1118,C1119,C1120,C1121,C1122,C1123,C1124,C1125 Elementary Chinese A	担当者所属 職名・氏名	文学研究科 准教授 成田 健太郎 人間・環境学研究科 教授 松江 崇 国際高等教育院 准教授 劉 愛群 非常勤講師 大賀 晶子 非常勤講師 林 淑美 非常勤講師 山本 浩史 非常勤講師 山田 晃三 非常勤講師 上原 尉暢 非常勤講師 前田 尚香 非常勤講師 小出 敦 非常勤講師 中原 理恵 文学研究科 教授 緑川 英樹 非常勤講師 南 真理 非常勤講師 鈴木 博之

群	外国語科目群	分野(分類)		使用言語	日本語

旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）

開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	月2/月3/月4/火3/水3/水4/木1/木2/木3/金2/金3/金4/金5	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

本授業は、初めて中国語を学ぶ学生を対象にしたものであり、簡単なスキットと初歩的な文法事項を段階的に学びながら、読む、書く、聞く、話すといった能力を身につけてゆく。この授業では特に文法的知識の習得を目指し、演習の授業と連携したかたちで、授業をすすめる。

[到達目標]

中国語の発音体系を身につけた上で、中国語の基礎的な文法事項を理解し、中国語による表現の基礎を身につける。上海などを舞台としたスキットを題材としつつ、広く中国の文化に対する理解を深める。

[授業計画と内容]

この授業はフィードバック（方法は別途連絡する）を含む全15回で行う。
最初の３回の授業では、テキストの「発音編」に基づきながら、中国語の表音システムであるピンイン（ローマ字綴り）の学習を通じて中国語の発音体系のあらましを習得する。
その後、テキストの「本文編」に基づきながら、スキットと文法事項ごとの例文の学習を通して、正確な文法的知識、基本的な表現力の習得を目指す。前期は発音編と本文編第九課までを学びながら、特に、文法体系の枠組みを理解することをめざす。原則として1回の授業で本文編の１課分を学習する。なお、Web上にも教材の音声を置き、履修生には24時間自由なアクセスを認め、その自学自習を支援する。
本授業は、所定の演習の授業と連携して行われるため、かならずセットで履修しなければならず、この授業だけの履修は原則として認められない。各回において学ぶ内容（発音事項・文法事項）は次のようである。

第1回　発音編「中国語の音節構造」「声調」「韻母 その一 単母音」「声母 その一」
第2回　発音編「韻母 その二 複合母音」「声母 その二」「韻母 その三 鼻音を伴う母音」「第3声の発音」
第3回　発音編「簡単なフレーズ」「声調変化」「軽声」「儿化」

中国語IA（文法） C4101,C4102,C4103,C4104,C4105,C4106,C4107,C4108,C4109,C4110,C4111,C4112,C4113,C4114,C4115,C4116,C4117,C4118,C4119,C4120,C4121,C4122,C4123,C4124,C4125,C4126,

第4回　第一課、「人称代詞」「“ 是 ”“ 不是 ”」「動詞述語文」
第5回　第二課、「連体修飾1“ 的 ”」「語気助詞“ ma ”“ ne ”」「副詞“ 也 ”」
第6回　第三課、「指示代詞」「形容詞」「動詞“ 在 ”」」
第7回　第四課、「動詞 “ 有 ”」「介詞“ 在 ”など」「数詞と量詞」
第8回　第五課、「進行表現“ 在／正在…（ne） ”」「時間詞1“ 今天 ”“ 晩上 ”など」「選択疑問文“ …還是…？ ”」
第9回　第六課、「語気助詞“ ba ”」「副詞“ 就 ”」「副詞“ 都 ”」
第10回　第七課、「“ zheme ”“ name ”」「“ 想 ”“ 打算 ”“ 要 ”」「“ 一下 ”」
第11回　第八課（前半）、「時間詞2　年・月・日・曜日・時刻」「名詞述語文」
第12回　第八課（後半）、「主述述語文」「“ 一点児 ”」
第13回　第九課（前半）、「結果補語」「アスペクト助詞“ 過 ”」
第14回　第九課（後半）、「“ 不是…ma? ”」「“ 把 ”構文」
《期末テスト》
第15回　フィードバック

[履修要件]

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

[成績評価の方法・観点]

原則として定期試験80%、平常点20%で評価する。詳細については授業の最初の時間に説明する。

基本的な語彙・文法事項の理解と、それを用いた表現能力の修得が評価の対象となる。

[教科書]

赤松紀彦　他 『中国語の世界―上海・2026―』（大地社）

[参考書等]

（参考書）
詳細な学習方法や、辞書及び参考書については、最初の授業や授業の中で紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

Web上に教材や練習問題の音声を置く。24時間自由にアクセスできるので、必ず授業の前に、音声を聞くとともに文法事項について目を通しておくこと。また、練習問題が宿題となることもある。必ず復習とともに練習問題等の課題を行うこと。

[その他（オフィスアワー等）]

最初の授業において紹介する。

[主要授業科目（学部・学科名）]